

講義名：日本語教授法の基礎 < 通期 > 曜日1：月2 担当教員名：有川 康二	ナンバリングコード：LAED1400 曜日2：月2
研究室：聖アンデレ館6階624号室 オフィスアワー：月、木の昼休み	メールアドレス：karikawa@andrew.ac.jp

授業形態
『講義』『実習』『実務経験のある教員による授業①(専門学校、ボランティア、米国の大学でTA、講師として日本語を教えた経験を持つ教員が、初級日本語文法やドリルの基本について解説、講義する。)』

講義・演習概要
一定の制限された状況(教室)や時間内(初級の集中コースとして例えば週15時間で約6か月)に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習(ドリル)を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となります。何語でもそうですが、ある言葉が母語としてべらべら話せることと、その言葉を外国語として学習する人に体系的、説得的に教えることのできる能力とは別物です。日本語の母語話者は日本語学習者と適当に世間話ができますが、初級の学習者に日本語の文法や文パターンを効果的、説得的に教えることはできません。初級レベルで学習者が興味を失ってしまったら、それまでです。ある意味では初級レベルが最も難しいと言えます。文法の質問から逃げる日本語教師は学習者には信頼されません。また同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか?何故、私は日本語を外国語として教えるのか?日本語を教えるという仕事を通して私には何が出来るのか?」という問いを問い続けなくてはならないと思います。

学習(到達)目標
外国語教授法のノウハウとは何か?どんな授業がよいのか?どんな教材が必要なのか?どんな仕事に就ける可能性があるのか? 本学の先輩達は日本語教員資格を取得してどんな所で仕事をしているのか?

講義・演習計画	
【第1回】 イントロ 外国語教授法のノウハウとは何か? どんな授業がよいのか? どんな教材が必要なのか? どんな仕事に就ける可能性があるのか? 本学の先輩達は日本語教員資格を取得してどんな所で仕事をしているのか?	【第16回】 様態・伝聞・推量の助動詞(ア)ばんハオイシソウダ/オイシソウダ/オイシヨウダ/オイシイラシイ(1)
【第2回】 指示表現(コソアト)(1)	【第17回】 様態・伝聞・推量の助動詞(2)
【第3回】 指示表現(2)	【第18回】 テイル・テアル・テオク(窓ガ開イテイル/窓ガ(ヲ)開ケテアル/窓ヲ開ケテオク)(1)
【第4回】 形容詞(イ形容詞/ナ形容詞)(1)	【第19回】 テイル・テアル・テオク(2)
【第5回】 形容詞(2)	【第20回】 授受表現((テ)モラウ/イタダク、(テ)クレル/クダサル、(テ)ヤル/アゲル/サシアゲル)(1)
【第6回】 存在表現(アル/イル)(1)	【第21回】 授受表現(2)
【第7回】 存在表現(2)	【第22回】 態(受身(イジメラレル)・使役(イジメサセル)・使役受身(イジメサセラレル))(1)
【第8回】 時制(テンス)と相(アスペクト)(1)	【第23回】 態(2)
【第9回】 時制(テンス)と相(アスペクト)(2)	【第24回】 条件表現(離婚シタラ~/離婚スルナラ~/離婚スレバ~/離婚スルト~)(1)
【第10回】 保留形(テ形)(1)	【第25回】 条件表現(2)
【第11回】 保留形(テ形)(2)	【第26回】 敬語(オ話しナル/オ話しスル/オ話しヤル/申ス/ナサル/イタス等)(1)
【第12回】 願望の助動詞(ta/gar)(1)	【第27回】 敬語(2)
【第13回】 願望の助動詞(2)	【第28回】 復習とQ & A
【第14回】 可能の助動詞(e/(ra)re)(1)	【第29回】 復習とQ & A
【第15回】 可能の助動詞(2)	【第30回】 復習とQ & Aと試験

成績評価の方法				
試験		レポート	その他	100%
コメント	毎回のPDF資料の中に、私のコメントを吹き出しで付けます。そのコメントを読みながら、資料に目を通して下さい。読みながら、自筆で、ノートに内容のまとめを書いてください。それを撮影して、Wordに貼り付けて、ファイル提出して下さい。文法の解説は、何故?という風に考えるのかというロジック(論理、辻褄)に集中してください。ドリルは、どのようにすれば、現実に近い練習ができるのかを考えて下さい。			

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
三浦昭(1983)『初級ドリルの作り方』凡人社
岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク
Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典. The Japan Times.

事前および事後学習の指示 (事前学習 60 時間・事後学習 60 時間)
本学には世界の様々な国から留学生が来て日本語や日本文化について勉強しています。留学生の人たちと話をしてみてください。

その他備考(担当教員用)
授業資料は、Makino and Tsutsui (1986)と三浦(1983)から抜粋した関連項目のPDFをM-Portで送信します。

キーワード

備考(管理者用)
(旧:日本語教授法 I)02~18生読替